

## ニッセイ インターネットアンケート ～「セカンドライフ」について～

日本生命保険相互会社(社長:清水博)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ(<https://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「セカンドライフ」に関するアンケート調査を実施いたしました。

### 《アンケート概要》

- 実施期間：2019年8月1日(木)～8月21日(水)
- 実施方法：インターネットアンケート(「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー)
- 回答者数：10,061名(男性:5,236名、女性:4,825名)

＜年代別回答者数＞

[名]

年代							合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
男性	371	690	1,208	1,532	974	461	5,236
女性	372	803	1,084	1,280	812	474	4,825
合計	743	1,493	2,292	2,812	1,786	935	10,061
占率	7.4%	14.8%	22.8%	27.9%	17.8%	9.3%	100.0%

### 《アンケート結果のポイント》

#### ポイント①

質問 1～2

#### 【定年について】

- 従業員数が少ない職場ほど、定年は「65歳」「70歳」と回答した方の割合が多く、**全体で対前年と比較すると「65歳」定年が増加している。**
- 年代別で見ると、「60～64歳」まで働き続けたいと回答した方が37.8%と最も多く、対前年と比較すると、**ほぼ全ての年代で「65～69歳」まで働き続けたいと回答した方の割合が増加している。**
- 45.9%の方が、65歳以上も働き続けたいと回答した。**

#### ポイント②

質問 3～5

#### 【セカンドライフの予算について】

- 単身の場合は、**平均で約24.3万円となり、年代別で見ると20代以下の回答者の平均は、約27万円と最も高く、対前年と比較して4.1万円増額となった。**
- 夫婦の場合は、**平均で約27.9万円となり、年代別で見ると60代の回答者の平均は、約29.5万円と最も高かった。**
- 貯めておきたい金額の平均は、2,888万円となり、対前年と比較して8万円増額した。**

#### ポイント③

質問 6～9

#### 【セカンドライフへの不安・転居したい都道府県】

- 定年に近づく年代ほど、セカンドライフに不安を感じる割合が高くなっている。**
- 7割以上の方が、セカンドライフを過ごすにあたり転居を望まないと回答した。
- 転居をしたいと回答した方が選ぶ、**セカンドライフを過ごしたい都道府県は、1位が「北海道」、2位が「東京都」となり、「北海道」が初の1位となった。**

**質問1 【企業・団体にお勤めの方への質問】**

あなたの職場では定年は何歳ですか？（回答者数：4,309名）

- 定年は「60歳」と回答した方が63.0%と最も多かった。
- 従業員数が少ない職場ほど、定年は「65歳」「70歳」と回答した方の割合が多く、全体で対前年と比較すると「65歳」定年が増加している。

**■定年の年齢<従業員規模別>**

	（%）			
	60歳未満	60歳	65歳	70歳
50人未満	8.2	48.0	38.7	5.2
50～300人未満	4.7	60.1	33.6	1.5
300～5,000人未満	4.0	71.1	23.7	1.1
5,000人以上	4.6	66.8	27.7	1.0
全体	5.1	63.0	30.0	1.9

従業員が少ない会社ほど  
「65歳」「70歳」と回答した方が多い

「65歳」定年が  
1.7ポイント増加している

**【参考(2018年度)】**

	（%）			
	60歳未満	60歳	65歳	70歳
50人未満	5.4	51.6	37.5	5.5
50～300人未満	5.6	63.9	29.1	1.4
300～5,000人未満	5.4	69.7	24.0	0.9
5,000人以上	5.7	69.5	23.7	1.1
全体	5.7	63.9	28.3	2.1

**質問2 何歳まで働き続けたいと思いますか？（回答者数：4,334名）**

- 年代別で見ると、「60～64歳」まで働き続けたいと回答した方が37.8%と最も多く、対前年と比較すると、ほぼ全ての年代で「65～69歳」まで働き続けたいと回答した方の割合が増加している。
- 45.9%の方が、65歳以上も働き続けたいと回答した。

**■何歳まで働きたいか**

	全年代	（%）					
		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
60歳未満	16.3	30.2	22.2	18.0	10.9	0.6	5.9
60～64歳	37.8	35.9	37.7	37.1	43.4	21.6	5.9
65～69歳	31.7	27.3	28.8	30.6	32.0	50.9	2.9
70～74歳	8.4	2.9	6.7	8.5	8.4	17.4	35.3
75歳以上	5.8	3.7	4.6	5.7	5.3	9.5	50.0

45.9%

年代が高いほど、働き続けたい  
年齢が高い

**【参考(2018年度)】**

	全年代	（%）					
		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
60歳未満	18.1	30.1	25.0	21.2	14.5	7.6	8.2
60～64歳	36.1	39.7	40.5	36.2	41.2	24.5	15.6
65～69歳	28.2	22.9	22.6	27.8	29.6	40.0	16.3
70～74歳	8.6	2.9	6.3	7.5	7.7	14.9	19.9
75歳以上	9.0	4.3	5.5	7.2	7.1	13.0	40.1

＜ニッセイ基礎研究所 生活研究部 主任研究員 井上智紀のコメント＞

いのうえともき



定年年齢は依然として「60歳」が最も多くなっているものの、比較的従業員規模が小さい職場を中心に「65歳」が増加していることは、深刻化する人手不足への対応として経験豊富なシニア層の活躍への期待があるのではないのでしょうか。

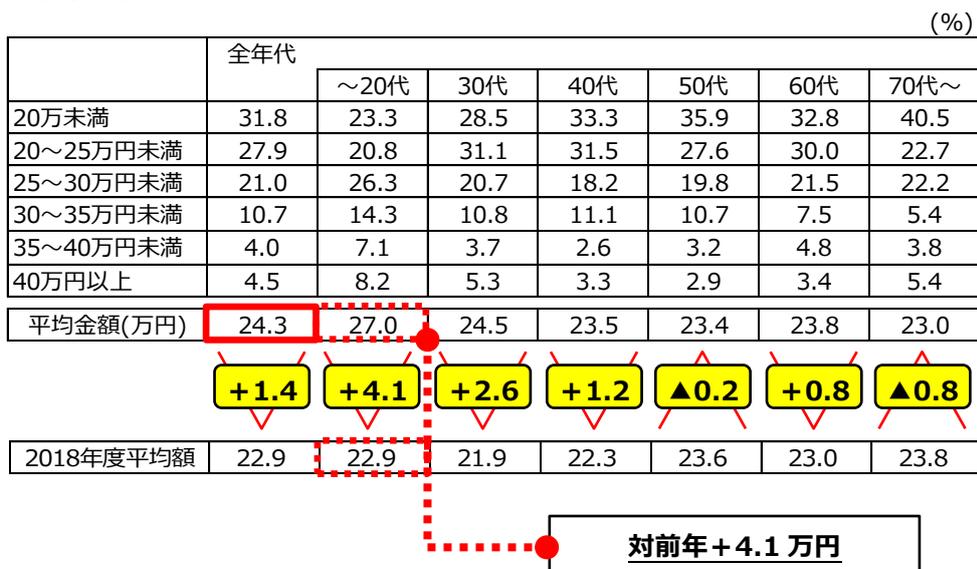
一方で、個人としての働き方では、年代によらず60代後半まで働き続けたいとする回答が増加しています。先月末に公表された年金財政の検証に関する報道等をうけた、老後生活費に対する不安への対処として、できるだけ長く働くことを希望するようになってきているものと考えられます。

質問3 ゆとりあるセカンドライフに必要な生活費（1カ月あたり）はいくらくらいだと思いますか？

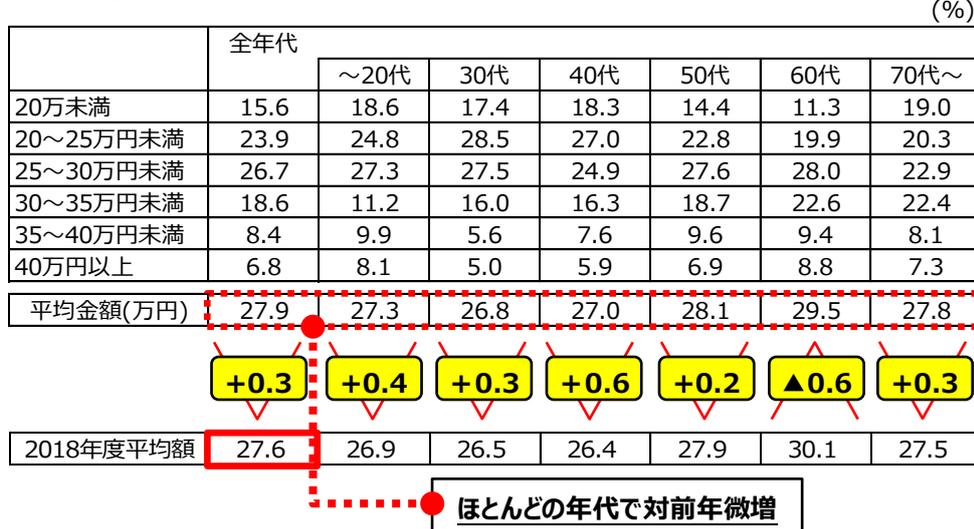
（単身回答者数：2,775名）（夫婦回答者数：5,987名）

- 単身の場合は、平均で約24.3万円となり、年代別で見ると20代以下の回答者の平均は、約27万円と最も高く、対前年と比較して4.1万円増額となった。
- 夫婦の場合は、平均で約27.9万円となり、年代別で見ると60代の回答者の平均は、約29.5万円と最も高かった。

■単身の場合



■夫婦の場合



質問4 セカンドライフをスタートするまでに、貯めておきたい金額はいくらくらいですか？

(回答者数：8,543名)

質問5 質問4の金額のうち、現時点でどれくらい達成できていますか？ (回答者数：8,129名)

- 貯めておきたい金額は、全年代で「1,000～3,000万円未満」と回答した方が最も多かった。
- 貯めておきたい金額の平均は、2,888万円となり、対前年と比較して8万円増額した。
- 40・50代の約8割、60代の約6割の方は、現時点で目標額を達成できていない。
- 20代以下でも、約9割の方がセカンドライフのために準備をする必要性を感じている。

■貯めておきたい金額

	全年代 (%)						
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
500万円未満	9.1	12.5	7.2	9.9	7.5	8.8	15.2
500~1,000万円未満	13.2	17.2	16.2	13.0	12.3	9.6	15.5
1,000~3,000万円未満	44.2	43.3	46.1	46.7	43.6	42.1	39.7
3,000~5,000万円未満	27.5	24.4	26.3	25.4	29.1	31.8	23.3
5,000万円以上	6.0	2.6	4.1	5.0	7.6	7.7	6.4
平均金額(万円)	2,888	2,340	2,654	2,727	3,133	3,213	2,709
	+8	+17	+128	▲51	+54	▲46	▲271
2018年度平均金額	2,880	2,383	2,526	2,778	3,079	3,259	2,980

■どれくらい達成できているか

	全年代 (%)						
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
10%未満	21.7	51.1	31.6	24.8	16.6	7.7	11.2
10~30%未満	21.1	25.6	34.9	28.1	16.1	9.4	9.3
30~50%未満	14.5	6.5	13.4	16.4	16.9	13.1	11.8
50~80%未満	19.2	4.3	7.4	15.5	26.7	28.7	20.3
80~100%	15.7	1.3	2.5	5.9	16.6	37.1	43.4
まだ準備する必要性を感じない	7.7	11.1	10.2	9.3	7.1	4.1	3.9

20代以下の約9割の方が準備する必要性を感じている

40・50代の約8割、60代の約6割の方は目標額を達成できていない

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 主任研究員 井上智紀いのうえともきのコメント>

ゆとりあるセカンドライフに必要な生活費、貯めておきたい金額ともに、昨年度に比べ世代を問わず増加していることは、社会保障に対する不安を背景とした、今後のさらなる負担の増加や公的年金の給付抑制を見越した結果といえそうです。

一方で、20代以下でも約9割がセカンドライフのための貯蓄を必要と感じていることは、ともすれば遠い将来のために現在の消費を抑制することにもつながります。過度な消費の抑制や、金融トラブルへの遭遇も危惧されるところです。

質問 6 セカンドライフに不安はあるか？ (回答者数：4,239名)

質問 7 【質問 6 で「ある」と回答した方への質問】

何に最も不安を感じていますか？ (年代別回答者数：3,039名) (世帯年収別回答者数：3,114名)

- 定年に近づく年代ほど、セカンドライフに不安を感じる割合が高くなっている。
- 50代では約8割の方が、セカンドライフに不安を感じている。
- 「自身の健康・病気」に不安を感じる方が、全体の39.9%となり最も多かった。
- 世帯年収が上がるにつれ、「生活費や医療費」と回答した方の割合が少なかった。

■不安を感じているか

	全年代 (%)						
	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
ある	74.2	62.5	72.4	76.6	78.9	67.6	50.0
ない	25.8	37.5	27.6	23.4	21.1	32.4	50.0

定年に近づく年代ほど、不安を感じる割合が高くなっている

■不安に感じていること(年代別)

順位	内容	全年代 (%)						
		~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
1位	自身の健康・病気	39.9	33.7	32.8	37.1	43.7	57.7	86.7
2位	生活費や医療費	29.5	27.1	33.8	33.3	27.6	15.3	6.7
3位	年金制度	11.3	20.1	16.3	10.4	7.9	8.8	0.0
4位	親の介護	6.0	7.0	6.4	6.0	6.0	3.7	6.7
5位	家族の健康・病気	5.8	5.5	4.2	4.9	7.5	7.0	0.0

全年代で「自身の健康・病気」が1位

■不安に感じていること(世帯年収別)

順位	内容	全年代 (%)					
		300万円未満	300万~500万円	500万~700万円	700万~1,000万円	1,000万~1,500万円	1,500万円以上
1位	自身の健康・病気	38.9	38.9	38.2	40.1	40.0	55.3
2位	生活費や医療費	36.0	31.9	31.2	29.6	20.3	18.7
3位	年金制度	9.9	13.9	12.0	11.5	7.9	2.4
4位	親の介護	5.3	5.4	6.0	6.5	7.2	7.3
5位	家族の健康・病気	2.5	3.6	6.1	7.1	10.3	7.3

年収が上がるにつれ、「生活費や医療費」と回答した方の割合が少ない

■不安がない理由

順位	内容	全年代 (%)						
		~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
1位	頼れる家族がいるから	19.3	16.9	21.9	17.2	16.3	25.0	69.2
2位	老後のキャリアプランができていないから	19.0	26.1	14.3	20.1	19.1	16.3	7.7
3位	十分な貯蓄があるから	16.8	7.0	16.3	13.5	25.7	18.8	7.7

全年代で20代以下が最も多い

質問 8 セカンドライフを過ごすにあたり転居したいと思いますか？（回答者数：8,512名）

質問 9 【質問 8 で「はい」と回答した方への質問】

セカンドライフを過ごしたい都道府県はどこですか？

またその理由は何ですか？（回答者数：1,621名）

○7割以上の方が、セカンドライフを過ごすにあたり転居を望まないと回答した。  
 ○転居をしたいと回答した方が選ぶ、セカンドライフを過ごしたい都道府県は、1位が「北海道」  
 2位が「東京都」となり、「北海道」が初の1位となった。

■転居したいと思うか

(%)

	全体		
		男性	女性
はい	25.7	25.8	25.6
いいえ	74.3	74.2	74.4

■転居をしたいと回答した方が、セカンドライフを過ごしたい都道府県

順位	都道府県	(昨年順位)
1位	北海道	(3位)
2位	東京都	(1位)
3位	沖縄県	(2位)
4位	大阪府	(5位)
5位	神奈川県	(4位)
6位	福岡県	(6位)
7位	京都府	(11位)
8位	愛知県	(9位)
9位	千葉県	(10位)
10位	静岡県	(12位)

「北海道」が初の1位

■その都道府県を選んだ理由

【1位：北海道】

(%)

順位	理由	占率
1位	自然が豊か	35.6
2位	食べ物が豊富	13.8
3位	気候が良い	12.5

【4位：大阪府】

(%)

順位	理由	占率
1位	交通網の発達	31.3
2位	医療・介護施設が多い	8.2
3位	物価が安い	6.1

【2位：東京都】

(%)

順位	理由	占率
1位	交通網の発達	44.4
2位	医療・介護施設が多い	18.4
3位	娯楽が多い	13.8

【5位：神奈川県】

(%)

順位	理由	占率
1位	交通網の発達	26.9
2位	治安が良い	14.1
3位	自然が豊か	7.7

【3位：沖縄県】

(%)

順位	理由	占率
1位	自然が豊か	49.1
2位	気候が良い	31.6
3位	物価が安い	5.8

「自然が豊か」「交通網の発達」で二極化している傾向がある

以上